

各団体における25～28年度の取組状況・振り返りについて

1 お伝えいただきたい事項

- ・委員の皆さまよりご提出いただいた内容について、事務局で簡単に概要を以下にまとめております。
- ・次第4(1)では、シートに基づき、2～3分程度で「25～28年度の取組状況・振り返り」の箇所をご報告いただきますようお願いいたします。
- ・また、次第4(3)におきましては、事務局より第2期健康横浜21の中間評価の概要についてご説明後、委員の皆様より御意見を頂きます。

2 平成25～28年度の取組状況・振り返りまとめ

No	団体名	25～28年度の取組状況・振り返り	No	団体名	25～28年度の取組状況・振り返り
1	横浜市体育協会	ウォーキングイベントやランニング推進事業を実施し、毎年参加者が増加。幅広い年齢層の各種スポーツ教室も年々参加者数が増加し、健康への意識が高まっている。子ども体力向上事業について保育園や小学校等にPRし、関心が高まってきている。医師会とも連携し、事業を継続的に実施した。	11	横浜市歯科医師会	保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業、横浜市歯と口の健康週間事業、横浜市妊婦歯科健康診査事業、乳幼児歯科健診事業、オーラルケア推進事業、横浜市介護予防事業、各地区介護予防事業等や歯周病予防教室・食生活等改善推進員事業等の把握、横浜市食育関連事業、生活習慣病重症化予防
2	(株)神奈川新聞社	シニア読者層に対応した健康・医療・福祉の専門面を開設し、紙面啓発を行った。また、500～1,000人規模での医療・健康セミナー・催事等での啓発を実施。ウォーキング、ランニング、自転車等のイベントを実施し、運動催事による啓発を行った。	12	横浜市薬剤師会	市禁煙支援薬局事業・薬物乱用防止キャンペーン事業・各区のイベント等での禁煙相談・啓発の実施、小学校・中学校での薬物乱用防止教育や、区や横浜シニア大学と連携した高齢者のお薬適正使用についての講演、ウォーキング事業(よこはまウォーキングポイントや薬草探索健康ウォーキング事業)の参加や広報に取り組んだ。
3	(株)テレビ神奈川	25年度からの『tvkいきいきマーじゃん教室』の実施や、『横浜マラソン』に合わせた番組を放送し、市民の健康とスポーツへの関心を喚起してきた。また、大豆100粒運動による食育活動を支援。「未病特別番組」や、市民の関心も高い様々な健康関連の取材を行い、放送した。	13	横浜南労働基準監督署	ストレスチェック制度の啓発を主に行い、実施率が78.2%となり啓発の効果があつた。また、社会福祉施設は事業場数が増加しており、労働災害発生件数も10年で2倍。横浜市と連携して講習会等を実施しているが、腰痛等の労働災害発生件数は、横ばい状態であり、労働災害発生防止を推進する必要がある。
4	横浜市保健活動推進員	重点取組テーマ「地域の健康づくり」 ① 横浜健康スタイル事業への協力と推進② 禁煙・分煙・受動喫煙防止の推進③ 特定健診、ガン検診の普及啓発④ ロコモ対策の推進⑤ 認知症の理解と予防	14	神奈川産業保健総合支援センター	①地域産業保健事業②産業保健推進センター事業③メンタルヘルス対策支援センター事業 これらの事業について関係行政機関、災害防止団体及び事業者団体等と連携し、あらゆる機会を捉えて周知広報を図り、事業場の産業保健活動の支援及び産業保健活動へのニーズ対応する事業の展開に努めた。
5	神奈川県栄養士会	「育ち・学びの世代」に向けて親子で楽しく学べる食育活動を展開。「働き・子育て世代」に向けて健康情報の提供や生活習慣を見直す指導を実施。「稔りの世代」に向けて介護予防の食生活について講和、調理実習。すべてのライフステージに向けて、食を通じた健康づくりへの関心を深めた。	15	神奈川県国民健康保険団体連合会	①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組結果 ②特定健診受診促進への取組 ③健康づくり促進への取組
6	相鉄ローゼン(株)	①神奈川食育を進める会とともに食育活動に継続して参画 ②インフルエンザ予防接種啓蒙の推進 ③生活習慣病健診対象の希望者に、自己負担で腫瘍マーカー検査を実施。	16	健康保険組合連合会神奈川連合会	①毎月第4土曜日、100キロウォーク(1年間で100キロ歩く)を実施 ②特定保健指導機関として登録し、特定保健指導を促進 ③講習会を年2回、定着して実施。 ④健保組合からの要請により、共同保健師が講話やセミナーを実施
7	JA横浜	24年度から実施している「健康寿命100講座」は内容や開催会場を検討した結果、地域住民に定着した事業となり25年度から28年度までの参加人数は766名となった。	17	全国健康保険協会神奈川支部	①健診の促進(健診受診率向上に向けた対象事業者、被扶養者等への取組) ②特定保健指導の促進③事業主等の健康づくり意識の醸成(かながわ健康企業宣言の参加企業に対し、健康づくりサポートを実施)④重症化予防対策(要治療者への受診勧奨、医療につなげる取組)⑤その他
8	横浜市食生活等改善推進員協議会	25年度から世代別対象健康づくり講座を開催し、市民の食習慣の振り返りや生活習慣を変えるきっかけとなり、一定の成果を上げた。また、若者の朝食欠食率の改善を重点に置いた活動や、地域の食育啓発普及活動に協力し地域に根差した活動を推進。	18	横浜市食品衛生協会	神奈川県食品衛生国民健康保険組合と連動した特定健診の受診率向上の取組、小規模な飲食店等へパンフレットの配布による啓発。検便の事業はインターネットによる安価な販売が定着し始め、食中毒予防等の効果が期待できる。
9	横浜市PTA連絡協議会	①安全に関する研修会②日本PTA全国研究大会食の安全・安心についての分科会③関東ブロック大会健康教育についての分科会④指定都市大会等へ参加し、各区P連へ情報共有や話し合いを行っている。また、ウォーキングの推進等、健康福祉局事業への積極的協力も行っている。	19	横浜市医師会	①各種がん検診受診率の向上と精度管理の充実②産婦健診導入に向けての調整③全市一斉健康相談事業による市民への健康相談実施④市民広報誌「みんなの健康」の発行、「みんなの健康ラジオ」放送⑤糖尿病重症化予防事業全区展開に向けての調整⑥禁煙外来医療機関名簿、マップの作成協力
10	禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議	学校・地域・産業保健の分野へ、禁煙・受動喫煙防止に関する講演・研修会を実施(H25～28 約440回)。イベント等の禁煙相談にて、喫煙者が減少していることを実感。今後、関係団体と連携を深めて活動を継続するとともに、禁煙・受動喫煙防止についての広報、啓発活動の展開方法について検討していく。			

横浜市体育協会	参考計画
---------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション			
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業			
分野	運動(育ち・学び)	運動(稔り)		
行動目標	毎日楽しくからだを動かす 定期的に運動する／あと、1000歩歩く	歩く、外出する		

これまでの取組	25～28年度の取組状況・振り返り	今後の取組の方向性	
【参考】28年度実績	中間地点		
<p>1. ウォーキングやランニングの推進</p> <p>①ウォーキング/エイドステーション及び独自のウォーキングコースの設置(16施設) ②ウォーキングリーダーの設置(16施設) ③みどりアップ事業との連携:環境創造局からの委託事業:5区(神奈川・西・磯子・港北・緑)において実施④横浜マラソンのチャレンジ枠の実施(磯子SCでランニングクリニックの実施及び区との共催事業でマラソン大会やクリニックの実施)その他の施設では、平成29年度に実施。</p> <p>2. 各種スポーツ教室等の実施</p> <p>①各スポーツセンター(全16施設で実施)・子ども(親子)対象の教室:ベビーマッサージ&ママのエクササイズ、はじめての親子体操、親子de英語リズム、親子体操、幼児体操、新体操、ヒップホップ、苦手チャレンジ、ジュニア体操・大人を対象とした教室:ピラティス、ベリーダンス・高齢者を対象とした教室:いきいき体操、お元気体操、転倒骨折予防、認知症予防 他</p> <p>②16施設で姿勢測定(各施設4回実施)③姿勢デザイン教室(8施設で実施)④スポーツ医科学センターと連携した事業の実施・減量教室を16施設で年1回実施。膝腰運動療法プログラム導入のため研修会の実施④オリンピック・パラリンピック競技の体験イベントの開催 各施設でスポレクや独自事業で実施</p> <p>3. 地域での運動指導</p> <p>①保育園事業(保育士研修5区(鶴見・神奈川・南・旭・港北):保育園訪問運動指導:全区87園)で実施②子どもの体力向上事業(中休み、放課後キッズ、学校保健委員会等)で実施③介護予防やケアプラザでの派遣指導(介護予防派遣指導等)</p> <p>4. 医師会との連携</p> <p>①各施設での医事相談の実施②方面別野球肘事業の実施(スポ医科、緑SC、金沢SC、戸塚SC、港南SCで実施)</p>	<p>・ウォーキングイベントは、25年度から毎年開催し、4年間で17,240人が参加。毎年参加者数は増加しており、平成26年度からは、毎年3,000人程度参加人数が増えている。また、独自のウォーキングコースを設置し、ウォーキングステーションとしての役割を担った。(16施設)</p> <p>・横浜マラソン大会のチャレンジ枠事業として、3施設は区と共催として事業を実施。その他の13施設は、栄養講座や大会に向けたランニング講座などをプログラムに取り入れ、ランニング推進の事業を実施した。(16施設)</p> <p>・子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象に各種スポーツ教室を実施した。平成25年度は1,005,000人の参加者数であったが、平成27年度には1,107,000人の参加者で102,000人増えた。年々参加者数が増加している傾向であり、健康に対する関心が高まっていると考えられる。(16施設)</p> <p>・保育園や子どもも体力向上事業では、保育園長会や小体研会(小学校)などに積極的にPRを実施し、プログラムに関心を持つ、園や学校が増えてきている。(18区)</p> <p>・医師会と連携をして、医事相談や野球肘事業を継続的に実施をした。平成29年度も実施している。</p>		
重点取組テーマ		今後のテーマ	
関連する指標			
①運動やスポーツを週3日以上行う小学5年生の割合②20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続③65歳以上で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続			
策定時値		最終目標	
		健康日本21	
①男子:49.7% 女子:25.8%	②全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	③全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	①増加傾向②全34%、男35%、女33%③全52%、男58%、女48%

ライフステージ

■「育ち・学びの世代」

■「働き・子育て世代」

■「総りの世代」

取組テーマ	健康アクション		
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業		
分野	運動	運動(総り)	
行動目標	定期的に運動する あと、1000歩歩く	歩く、外出する	

これまでの取組	25～28年度 of 取組状況・振り返り	今後の取組の方向性	
【参考】28年度実績	中間地点		
<p>①紙面啓発＝4月から日曜日付(全県版)で「支え合い」面、「すこやか」面を見開きで展開。健康寿命の延伸、介護施設や地域情報、シニアの生活設計、医療知識、健診など。</p> <p>②セミナー啓発(受託事業)＝日本整形外科学会市民公開講座(5月、2,000人)、メディカルセミナー(2月、500人)、県介護フェア(11月、1,400人)、CHO構想セミナー(5カ所、計520社)など。</p> <p>③運動催事啓発＝横浜開港ウォーク(未実施)、大栈橋マルシェ(2月、26,000人)</p>	<p>・紙面啓発＝28年度からシニア読者層に対応した健康・医療・福祉の専門面「支え合い」「すこやか」面を開設。週1回見開き(火曜日付)で展開中。読者ニーズの高い紙面で、当面、同紙面を維持する。現在のメイン企画は「介護の現場から」で神奈川県内の地域包括ケアシステムについて注目されるモデル事業などを紹介。地域での介護の担い手が紙面を活用し先進事例などを学ぶ資料になるよう働きかけたい。</p> <p>・医療・健康セミナー・催事などでの啓発＝年間に数回、500～1000人規模のセミナー・座談会・関連催事などを実施。本年度はがん制圧月間特集(9月、胃がんの早期発見)や県介護フェア(11月)、メディカルセミナー(2月)など。比較的に大きな催事は参加希望が多いため、抽選による事前申し込み制になっていることから小規模セミナーなどで漏れなくニーズに対応することが課題。</p> <p>・運動催事による啓発＝ウォーク、ランニング、自転車などのイベントの実施。 ウォーク…ヨコスカ海道ウォーク(28年度で4回実施。毎回3,000～4000人参加。横浜市民の参加は3割程度)、大栈橋マルシェ(28年度に3回計6日間実施、来場8万人) ランニング…ヨコハマ国際ちびっこ駅伝(28年度までで26回実施、小学生・高学年対象、4,000～5,000人参加、日産スタジアム) 自転車…サイクルチャレンジ(28年度までで3回実施、藤沢市) 運動催事は既存の取り組みはさらに参加者を増やすように努める。29年度実施の親子ランニングイベント「大さん橋マラソン」(11月、3,000人規模)や自転車を活用したまちづくりシンポ(11月)は着実に実施する。30年実施予定の三浦半島サイクルチャレンジを具体化する。共催する神奈川マラソン、神奈川駅伝は当社が継続するかは要検討。</p>		
重点取組テーマ		今後のテーマ	
関連する指標			
①20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続②65歳以上で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続			
策定時値		最終目標	健康日本21
①全体26.8%、男性25.4%、女性27.5% ②全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%		①全34%、男35%、女33%②全52%、男増加傾向、女43%	①全34%、男36%、女33%②全52%、男58%、女48%

ライフステージ

■「育ち・学びの世代」

■「働き・子育て世代」

■「稔りの世代」

取組テーマ	健康アクション		
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業		
分野	運動	食育	
行動目標	あと、1000歩歩く 定期的に運動する	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ	

これまでの取組	25～28年度 of 取組状況・振り返り	今後の取組の方向性					
【参考】28年度実績	中間地点						
<p>①第22回tvkいきいきマーじゃん教室 2016年5月9日～2017年2月21日(後援:横浜市健康福祉局ほか)</p> <p>②第3回横浜マラソン関連ブームアップ番組 →横浜マラソンに合わせ、秋に。</p> <p>③大豆100粒運動 年間 : 県内の小中学校を中心に約120校に和食の基本食材である大豆「津久井在来」を配布、栽培・加工方法指導のアドバイス、番組での紹介など、食育活動を支援。</p> <p>④横浜市医師会「健康最前線」の企画・放映→終了</p> <p>⑤「未病」特別番組の制作・放送→2017年1月3日18:00-19:00</p>	<p>①25年度から『tvkいきいきマーじゃん教室』を毎年実施。トータル約800名が参加した。マーじゃんを純粹に楽しみ、指と頭を使う「脳トレ」として活用、毎年定員を上回る応募がある。卒業生対象にタイ秋も実施。(後援:横浜市健康福祉局)</p> <p>②開催される『横浜マラソン』に合わせ、当日の生中継(7時間半)とブームアップのためのレギュラー番組を放送。市民の健康とスポーツへの関心を喚起してきた。</p> <p>③大豆100粒運動 年間 : 県内の小中学校を中心に約120校に和食の基本食材である大豆「津久井在来」を配布、栽培・加工方法指導のアドバイス、番組での紹介など、食育活動を支援。</p> <p>④「未病特別番組」の制作と放送。</p> <p>⑤「ニュース」や「ワイド番組」で、市民の関心も高い、様々な健康関連の取材を行い、放送。「健康最前線」といったレギュラーコーナーも実施。</p>						
重点取組テーマ		今後のテーマ					
関連する指標							
①20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続②65歳以上で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続③朝食を食べている小中学生の割合④1日の野菜摂取量・食塩摂取量/主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合⑤「口から食べる」を維持する							
策定時値		最終目標					
<table border="1"> <tr> <td>①全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%</td> <td>②全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%</td> <td>③94%</td> <td>④271g、10.7g/男性40.6%女性42.1%</td> <td>⑤67.7%</td> </tr> </table>	①全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	②全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	③94%	④271g、10.7g/男性40.6%女性42.1%	⑤67.7%		健康日本21
①全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	②全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	③94%	④271g、10.7g/男性40.6%女性42.1%	⑤67.7%			
		<p>①全34%、男35%、女33%②全52%、男増加傾向、女43%③100%④350g・8g/80%⑤80%</p> <p>①全34%、男36%、女33%②全52%、男58%、女48%③100%④350g・8g/80%⑤80%</p>					

横浜市保健活動推進員	参考計画
------------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション		
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業		
分野	運動	たばこ	
行動目標	あと、1000歩歩く 定期的に運動する	禁煙にチャレンジ	

これまでの取組	25～28年度取組状況・振り返り	今後の取組の方向性		
【参考】28年度実績	中間地点			
<p>①よこはま健康スタイル事業への協力と推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ウォーキングポイント参加者数が平成28年12月時点で22万人を超えた。目標を、平成29年度時点で累計参加者数を30万人と設定している。 よこはま健康スタンプラリーについて第4回の景品を2月に発送予定 <p>③ロコモティブシンドローム予防の啓発活動</p> <p>ロコモについて(認知度が低い20代、30代女性や40代男性など若い世代へ働きかけが重要になってくる。</p> <p>④特定健康診断、がん検診受診向上に向けた啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント等において乳がん自己触診法の体験を通じた啓発の実施、事業者と連携した特定健診の受診勧奨や各種測定の実施 満50歳以上の方に、2年に1回胃がん(内視鏡)健診実施の啓発 <p>④禁煙・分煙の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 各所イベントにおける受動喫煙防止啓発チラシの配布 小学校における出前喫煙防止講座の開催等 <p>⑤認知症の理解と予防</p> <ul style="list-style-type: none"> 元気づくりステーション事業との連携等、日々の活動を通じた認知症の理解や予防啓発 	<p>重点取組テーマ「地域の健康づくり」</p> <p>① 横浜健康スタイル事業への協力と推進</p> <ul style="list-style-type: none"> *よこはまウォーキングポイント事業 *26年～27年は保健活動推進員の事業への積極的参加に力を入れ、その後も改選ごとに新しく推進員になられた方の参加促進に力を入れ、29年前半には殆どの推進員が事業に参加している。また併せて各種イベントや町内会自治会活動や地区活動の中で推進員が地域住民に積極的に働きかけ、参加促進をはかった。28年以降は、歩くことが少ない高齢者にも働きかけ、歩くことの楽しさを実感してもらい事業に参加していただけるよう力を入れている。 *よこはま健康スタンプラリーについては、保健活動推進員が主催する健康づくり活動団体がこの事業に加わりそこに参加する方にラリーの趣旨を説明しハガキ投函につなげた。 ●当初の目標値はほぼ達成したが、今後は市民の中で事業に参加している人とそうでない人で、健康格差を生じないようにような方策を講じていくか求められてくる。 <p>② 禁煙・分煙・受動喫煙防止の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> *各種イベントにおける受動喫煙防止啓発チラシの配布 *小学校における出前喫煙防止講座の開催 ●神奈川県の実態調査を行ってきた。この条例施行により市内も禁煙・分煙・受動喫煙防止の推進が図られるようになってきた。今後は喫煙者を減らすために行政と連携してタバコを吸わない人を増やす支援啓発活動が必要である。 <p>③ 特定健診、ガン検診の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> *「市、区の保健活動推進会だより」に特定健診、ガン検診の記事を掲載し、市民に読んでもらうことで普及啓発をはかった。 *各種イベントや健康測定会を開催し、その中でマンモモデルを用いて乳がん自己触診体験を通じた啓発を実施。さらに事業者と連携した特定健診の受診勧奨や各種測定の実施。 ●それでも横浜市の受診率は全国でも最低レベルにあり、さらなる方策を考えていきたい。 <p>④ ロコモ対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> *地域のイベントや健康教室などでロコモ測定機器を活用したロコモ啓発を実施し、併せてロコモ予防体操を推進。 *一部の区では行政と連携し「乳幼児健診」時に福祉保健センターに来られる母親を対象に立上がりチェックなどのロコモ度チェックを実施。 ●ロコモというすぐ高齢者ということが頭に浮かぶが、若い世代の働きかけがより大切である。今後はこれらの世代に対しての啓蒙や測定機会を積極的に設ける必要がある。 <p>⑤ 認知症の理解と予防</p> <ul style="list-style-type: none"> *元気づくりステーション事業や筋トレグループとの連携など日々の活動を通じた認知症の理解や予防啓発を行った ●今後は認知症にならないための医学的知見にもとづいた予防活動に力を入れていきたい。 			
	重点取組テーマ	今後のテーマ		
	関連する指標			
	①20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続②成人の喫煙率③COPDの認知率			
	策定時値	最終目標		
		健康日本21		
①全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	②20.0%	③男性33.3% 女性41.0%	①全体34%、男性35%、女性33% ②12%③80%	①全体34%、男性36%、女性33% ②12%③80%

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション			
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業			
分野	食生活			
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ			

これまでの取組	25～28年度の取組状況・振り返り	今後の取組の方向性	
【参考】28年度実績	中間地点		
<p>①市民公開講座「住民自らが食生活を改善する力をつける支援」(5月28日 横浜市健康福祉総合センター)</p> <p>②横浜市歯と口の健康週間中央行事への後援 (6月12日 クイーンズスクエア)</p> <p>③シニア料理教室開催「しっかり食べて元気あアップ筋肉を減らさず自立生活」(7月2日 ウイリング横浜調理室 32名)</p> <p>④かながわ食育フェスタ「箸使い指導と豆つかみゲーム・外食の減塩ゲームなど実施」(7月28日 赤レンガ倉庫1号館 408名)</p> <p>⑤市民公開講座「子どもの食と栄養を支える」(9月29日 八洲学園 73名)</p> <p>⑥青葉区健康フェア 区民の健康づくり「箸使い指導と豆つかみゲーム・塩分官能検査を実施」(11月3日 青葉区スポーツセンター 517名)</p> <p>⑦健康チャレンジフェアかながわへの参加 「めざせ健康寿命日本一」(11月27日 クイーンズサークル252名)</p> <p>⑧シニア料理教室開催「和食で温まる心と体」(2月4日 ウイリング横浜調理室21名参加)</p> <p>⑨神奈川県栄養改善学会 市民公開講座「胃腸を活用して食べられるお口を取り戻そう」(2月28日 かながわプラザ)</p> <p>⑩市民活動フェアへの参加「健康は箸でつかもう・塩分官能検査」 県民サポートセンター(3月11日)</p>	<p><横浜県民活動事業部の取組></p> <p>■「育ち・学びの世代」に向けての取組み かながわ食育フェスタに継続参加し、食育クイズやゲームを通して親子で楽しく学べる食育活動を展開している 平成25年度来場者2800名平成26年300名平成27年300名平成28年408名 総計3808名</p> <p>■「働き・子育て世代」に向けての取組み 健康チャレンジフェアかながわ・展示ブースではレシピ配布や菱の使い方の指導、栄養相談を行い健康情報を提供している 平成25年110名平成26年126名平成27年150名平成28年252名 総計638名 けんぼde健康 健康応援フェア・特定保健指導の「栄養講話」を担当し、生活習慣を見直す機会とした 平成25年90名平成27年160名平成28年130名 総計380名</p> <p>■「総りの世代」に向けての取組み シニア料理教室開催・会員が講師となり健康寿命延伸に必要な介護予防の食生活について講話と調理実習を年間2回継続開催している 平成26年65名平成27年56名平成28年53名 総計174名男性の参加者もあり、実践的具体的な取組、今後は地域の支え合いとしての役割も考えたい</p> <p>■すべてのライフステージに向けた取組み 市民公開講座、市民活動フェア、青葉区健康フェアにおいて食生活相談、栄養相談を実施し、栄養士の紹介、アピールをし、食を通じた健康づくりへの関心を深めた 青葉区健康フェア 平成25年200名平成26年289名平成27年362名平成28年517名と年々増加し周知されている 市民活動フェア 平成25年20名 平成27年56名平成28年度56名 栄養相談の件数も増えていることから気軽に食生活の相談が受けられる拠点が必要と考える</p>		
重点取組テーマ		今後のテーマ	
関連する指標			
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量/主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合③「口から食べる」を維持する			
策定時値		最終目標	健康日本21
①94% ②271g、10.7g/男性40.6%女性42.1%	③67.7%	①100%②350g・8g/80% ③80%	①100%②350g・8g/80% ③80%

JA横浜	参考計画
------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション		
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業		
分野	食育	運動	
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ	定期的に運動する あと、1000歩歩く	

これまでの取組	25～28年度の取組状況・振り返り	今後の取組の方向性	
【参考】28年度実績	中間地点		
①地域住民を対象にワンコイン(500円)で参加できる地産地消当付き「めざせ！健康寿命100歳」の開催。6会場50名、合計300名を予定し開催したところ参加合計数336名と多くの参加があった。開催会場の支店長が挨拶し、JAを身近に感じてもらった事業となった。	<p>・24年度から実施している「健康寿命100講座」は内容や開催会場を検討した結果、地域住民に定着した事業となり25年度から28年度までの参加人数は766名となった。</p> <p>・会場の工夫:当初は同会場で6回の内容で開催していたが4年目からは3会場としたところ参加人数が大きく増加した。</p> <p>・内容の工夫:当初、500円の受講料で外部講師による講座を午後から行っていたが28年度より500円受講料で地産地消当付き講座とした。講師は、キャラバンメイト資格取得者のJA職員がつとめ映像を使用した認知症予防の「脳活レクリエーション」に変更した。結果、座学が中心の講座となり1回の定員も50名と増加し毎回定員を大きく超える申し込みがある。</p> <p>・今後も毎回実施しているアンケートを参考に地域住民を対象とした講座を開催していく。</p>		
重点取組テーマ		今後のテーマ	
関連する指標			
①20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続②65歳以上で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続③朝食を食べている小中学生の割合④1日の野菜摂取量・食塩摂取量／主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合⑤「口から食べる」を維持する			
策定時値		最終目標	
①全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	②全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	③94%	④271g、10.7g／男性40.6%女性42.1%
		⑤67.7%	
			健康日本21
			①全34%、男35%、女33%②全52%、男増加傾向、女43%③100%④350g・8g/80%⑤80%
			①全34%、男36%、女33%②全52%、男58%、女48%③100%④350g・8g/80%⑤80%

ライフステージ ■「育ち・学びの世代」 ■「働き・子育て世代」 ■「稔りの世代」

取組テーマ	健康アクション		
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業		
分野	食生活		
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ		

これまでの取組	25～28年度の取組状況・振り返り	今後の取組の方向性	
【参考】28年度実績	中間地点		
①第2期健康横浜21のライフステージ別健康づくり事業 【育ち学び世代】(乳幼児～青年期)72回 【働き子育て世代】(成人期)72回 【稔り世代】(高齢期)72回 ②生活習慣病予防のための減塩推進スキルアップ事業 20回 ③乳製品を使った料理講習会 18回 ④おやこの食育教室 20回 ⑤男性の自立を目指した料理教室 5回 ⑥高齢者の低栄養・認知症予防教室 5回 ⑦区民まつりへの協力 ⑧小・中学校・子育て支援グループ・地域ケアプラザ・地区センターへの食育啓発普及活動協力 ⑨上記の事業やイベントの参加者及び家庭訪問により味噌汁塩分濃度チェックと野菜摂取量調査アンケートを実施した(約2500件 現在集計中)。味噌汁塩分調査は25年度より4年間実施の成果として、前回家庭訪問を行った対象者において、塩分摂取量の低下や、野菜摂取量の増加の傾向がみられた。	・25年度から第2期健康横浜21の推進に即した健康づくり講座を世代別対象に計854回開催した。アンケート結果などから普段の食習慣の振り返りができた、生活習慣を変えようというきっかけとなった等の意見が見られ一定の成果を上げた。 ・おやこの食育教室・生活習慣病予防講座・男性のための料理教室等、内容・対象者を特定した講座を開催する中で、若者の朝食欠食率の改善を重点に置いた活動も行っている。 ・区民まつり・小・中学校・子育てグループ・地域ケアプラザ・地区センター等の食育啓発普及活動に協力し地域に根差した活動を推進した。 ・上記の事業やイベントの参加者及び家庭訪問により味噌汁塩分濃度チェック及び対象別啓発チラシ配布を継続的に行っている。 ・ウォーキング活動については、各区ごとに季節にあったコースや回数を設定し会員・地域住民とともに楽しい活動を常時展開している。		
重点取組テーマ		今後のテーマ	
関連する指標			
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量／主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合③「口から食べる」を維持する			
策定時値		最終目標	健康日本21
①94% ②271g、10.7g／男性40.6%女性42.1%	③67.7%	①100%②350g・8g/80% ③80%	①100%②350g・8g/80% ③80%

ライフステージ

■「育ち・学びの世代」

■「働き・子育て世代」

■「稔りの世代」

取組テーマ	健康アクション			
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業			
分野	食育			
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ			

これまでの取組		25～28年度の取組状況・振り返り			今後の取組の方向性	
【参考】28年度実績		中間地点				
<p>①安全に関する研修会へ参加 各関係諸団体での研修会や講演会等に積極的に参加し、会員相互の意義向上に努める。 よこはま学校食育財団講演会・横浜のこどもお弁当コンクールの後援・周知。</p> <p>②日本PTA全国研究大会札幌大会において、食の安全・安心についての分科会参加予定。</p> <p>③関東ブロック茨城大会において、健康教育についての分科会等に参加予定。</p> <p>④指定都市仙台大会において、地域防災等を学ぶ予定。</p> <p>⑤健康福祉局事業への積極的協力 ウォーキングの推進(ウォーキングポイント事業に参画) ・各単Pへの申込方法の周知・申込みの実施、参加者への直接PR</p>		<p>①安全に関する研修会へ参加 毎年、研修会や講演会等に積極的に参加し、会員相互の意義向上に努めている。 市P連役員参加の研修会等の場合は、理事会を通して、単位PTAまで広く伝わるよう情報発信に心がけた。よこはま学校食育財団講演会・横浜のこどもお弁当コンクールの後援・周知も行い、お弁当コンクールにおいては、既に三回目となり、回を重ねるごとに参加者も増え、食育に対する興味関心を持っていただけようになってきた。</p> <p>②毎年、日本PTA全国研究大会において、食の安全・安心についての分科会参加。各大会ごとに視点も代わり、勉強になっている。参加者は報告書を作成し、各区P連へ配付し、情報共有をしている。</p> <p>③毎年、関東ブロック大会において、健康教育についての分科会等に参加、日P同様、各区P連へ情報共有をしている。</p> <p>④毎年、指定都市大会において市P連役員代表が地域防災等を学ぶ。ここ数年は、東日本大震災にかかわる貴重な情報が多く、多くの事を学んでいる。横浜にも生かせるよう役員会等でも継続的に話し合いを重ねている。</p> <p>⑤健康福祉局事業への積極的協力。ウォーキングの推進(ウォーキングポイント事業に参画)・各単Pへの申込方法の周知・申込みの実施、参加者への直接PRをした。このPRにより、100名近くの応募があったと聞いている。効果があった。</p>				
重点取組テーマ					今後のテーマ	
関連する指標						
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量／主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合						
策定時値				最終目標	健康日本21	
①94% ②271g、10.7g／男性40.6%女性42.1%				①100%②350g・8g/80%	①100%②350g・8g/80%	

相鉄ローゼン(株)	参考計画
-----------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション		
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業		
分野	食生活	検診受診啓発	
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ	定期的にがん検診を受ける	

これまでの取組	25～28年度の取組状況・振り返り	今後の取組の方向性
【参考】28年度実績	中間地点	
<p>①神奈川食育を進める会とともに食育活動に継続して参画 ・第6回 いずみ野マルシェ 相鉄線いずみ野線沿線 環境未来都市構想、地域活性化のため、いずみ野駅前店で地元野菜店頭販売(地産地消)・市内加工品の販売、 ・いずみ野線開業40周年記念 相鉄フェスタに参加 ・相鉄いずみ野オータムフェスタ参加 ・神奈川県が推進する「未病(健康長寿)」に関する情報発信基地(店)として協力 ②インフルエンザ予防接種啓蒙の推進 ・インフルエンザ・風邪の予防のため、本社と各店舗にうがい薬と紙コップを配付し、うがいの励行 ・インフルエンザの予防接種を健康保険組合、共済組合の補助を受け実施。本年も社員の1/4が実施 ③生活習慣病健診対象の希望者に、自己負担で腫瘍マーカー検査を実施。(受診者の約1/3が検査を受診)</p>	<p>①神奈川食育を進める会とともに食育活動に継続して参画 ・いずみ野マルシェ(相鉄線いずみ野線沿線 環境未来都市構想、地域活性化のため、いずみ野駅前店で地元野菜、惣菜の店頭販売(地産地消)・市内加工品の販売) ・神奈川県が推進する「未病(健康長寿)」に関する情報発信基地(店)として協力 ②インフルエンザ予防接種啓蒙の推進 ・インフルエンザ・風邪の予防のため、本社と各店舗にうがい薬と紙コップを配付し、うがいの励行 ・インフルエンザの予防接種を健康保険組合、共済組合の補助を受け実施。本年も社員の1/4が実施 ③生活習慣病健診対象の希望者に、自己負担で腫瘍マーカー検査を実施。(受診者の約1/3が検査を受診)</p>	<p>③健康診断実施時に、自己負担での腫瘍マーカー検査規模者枠の拡大を検討中(検査内容は、検診機関による)</p>
重点取組テーマ		今後のテーマ
関連する指標		
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量/主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合③「口から食べる」を維持する④胃・肺・大腸がん検診40～69歳の過去1年間⑤乳がん検診40～69歳の過去2年間⑥子宮がん検診20～69歳の過去2年間		
策定時値		最終目標
①94%②271g、10.7g/男性40.6%女性42.1%③67.7%	④胃・男性36.7%女性27.0%/肺・男性23.7%女性18.2%/大腸・男性24.4%女性18.7%	⑤41.5% ⑥39.6%
		健康日本21
		①100%②350g・8g/80%③80%④胃40%/肺40%/大腸40%⑤50%⑥50%

横浜市歯科医師会	参考計画
----------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション		
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業		
分野	歯・口腔		
行動目標	しっかり噛んで食後は歯磨き 定期的に歯のチェック	口から食べるを維持する	

これまでの取組	25～28年度の取組状況・振り返り	今後の取組の方向性
【参考】28年度実績	中間地点	
<p>○保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士・看護師等のための歯の保健指導法研修会(H28.10月開催 参加人数:84人) 内容:保育所(園)等勤務者に対するむし歯予防の啓発及び指導の普及活動 ・保育所・幼稚園等の職員対象の乳幼児保健研修(H28.9月開催 参加人数:251人) 磯子区 磯子公会堂にて「乳幼児保健研修～口から学ぶ乳幼児の発達～」を開催 ○横浜市歯と口の健康週間事業(6月12日開催:中央行事 2232人参加) ○横浜市妊婦歯科健康診査事業(実施期間:平成28年4月1日～平成29年1月31日 受診者数:5,048人) ○乳幼児歯科健診事業 ・各区歯科医師会担当者に対し 乳幼児歯科健診結果(26年度・27年度)の報告ならびに健康横浜21で掲げる3歳児齲蝕罹患率目標達成を目的とした協議会を開催 ・乳幼児歯科健診マニュアルの作成・配布 ・乳幼児健康診査事業研修会の開催(参加者: 歯科医師・歯科衛生士他107名) ○オーラルケア推進事業(実施期間:平成28年4月1日～平成29年1月31日 受診者数:553人) ○ロコモ予防推進検討会へ参画 ・ロコモ発症の一つの要因となるオーラルフレイルに関する活動内容を検討会に報告 ・子どもロコモに関しては検討会では触れられていないため検討継続課題 ○各地区で行われている歯周病予防教室・食生活等改善推進員事業実態のアンケート調査の実施 ・各地区よりヒアリング終了 ○各地区で行われている介護予防事業実施回数、内容等の実態調査 ・ロコモ予防推進検討会資料より平成27年度実績を把握、各区に対し地区担当者を通じてその実態等の調査を依頼中 ・学校給食時における「噛むこと」に関連した調査(孤食・個食)について、8020財団歯科保健実態調査の中で実施 ・横浜市立学校のキャリア育成における中学2年生職業体験について、教育委員会と協議をおこない、8診療所でモデル的に実施予定 ・横浜市民に向けての市民公開講座の実施 横浜市食育プロモーション支援事業にて、食育フォーラムの開催(参加者:278人) ・8020財団歯科保健実態調査 ・子ども青少年局、教育委員会の協力のもと、保育園・小学校・中学校・高等学校で、歯科保健実態調査を実施 ・株式会社ロッテ「噛むこと研究室」と食育協働事業 ・横浜市歯と口の健康週間行事において、ロッテとの食育協働を開催した 来年度は、新たに東京ガスと予定しており、今後とも企業との食育共同事業を展開する ・平成27年度「あいうべ体操講演会」口呼吸から鼻呼吸へ開催(参加者:450人) 	<p>○保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市保育所入所児童歯科健康診査の実施 ・保育士・看護師等のための歯の保健指導法研修会の開催 ・保育所・幼稚園等の職員対象の乳幼児保健研修会の開催 ・横浜市保育所等入所児童歯科健診事業健診医研修会の開催 ○横浜市歯と口の健康週間事業 ・横浜市歯と口の健康週間中央行事の開催 ・横浜市18区における各区 歯と口の健康週間行事の支援実施 ○横浜市妊婦歯科健康診査事業 ・横浜市妊婦歯科健康診査の実施(横歯会員事務事業の支援) ・横浜市妊婦歯科健康診査事業実施医療機関研修会開催協力(横歯会員・未入会者対象) ・横浜市妊婦歯科健康診査事業協議会へ参画 ○乳幼児歯科健診事業 ・各区歯科医師会担当者会議の開催(乳幼児歯科健診に関わる内容を含む) ・乳幼児歯科健診マニュアルの作成・配布(横浜市歯科医師会・鶴見大学小児歯科学講座監修) ・乳幼児健康診査事業研修会の開催 ○オーラルケア推進事業 ・歯周疾患検診の実施 ・横浜市歯周疾患検診実施予定医療機関研修会の開催(※平成29年より歯周病検診に名称変更) ・横浜市オーラルケアの推進に関する懇談会へ参画 ○横浜市介護予防事業 ・ロコモ予防推進検討会へ参画 ○各地区で実施している歯周病予防教室・食生活等改善推進員事業等の把握 ・各区歯科医師会担当者会議の開催(各区福祉保健センターにおける事業等の把握を含む) ○各地区で実施している介護予防事業等の把握 ・各区歯科医師会担当者会議の開催(各区福祉保健センターにおける事業等の把握を含む) ○横浜市食育関連事業 ・横浜市食育プロモーション支援事業への協力(食育フォーラムの開催) ・横浜市食育フォーラムへ参画 ○生活習慣病重症化予防 ・横浜市国民健康保険保健事業検討会への参画 ・横浜市データヘルス計画にかかわる検討会への参画 	<p>○保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの取組の継続 ・保育所入所児童歯科健康診査事業においては健診内容・口腔保健指導内容のキャリアプレーションが必要(問題点:平成27年度より導入された「こども子育て新支援制度」により民間保育園への積極的な介入が困難) ・「保育士・看護師等のための歯の保健指導法研修会」および「保育所・幼稚園等の職員対象の乳幼児保健研修会」開催時期、内容等の見直し ○横浜市歯と口の健康週間事業 ・昨年度までの取組の継続 ・横浜市歯と口の健康週間中央行事の開催 ① 市民へオーラルリテラシー向上を目的とした事業への展開 ② 食育関連事業の推進 (平成29年度においては横浜市食育フォーラム参加団体である東京ガス、神奈川県栄養士会との食育に関する事業を既に開催済) ・各18区における歯と口の健康週間行事開催ならびに秋の健康作り月間行事開催支援(内容:地域性に合わせた事業展開にて開催) ○横浜市妊婦歯科健康診査事業 ・本事業においては保健指導の内容に育児に係る家族に対する指導等を充実させていく必要性があるが、本市においては全国的に類のない、歯科医師会未入会歯科診療所も実施医療機関となっており、すべてのライフステージに沿った地域歯科口腔保健活動に連続性を保つことが困難となっている 上記状況下であるため検討が必要 ○乳幼児歯科健診事業 ・昨年度までの取組の継続 ・第二子における齲蝕罹患率が第一子に比べ高い為 対策が必要 ○オーラルケア推進事業 ・昨年度までの取組の継続 ・歯周疾患等による全身疾患関連の継続的な啓発活動 ・特定健診への受診勧奨も含めた取り組みを検討 ○横浜市介護予防事業 ・オーラルフレイル(前フレイル期)に関する啓発活動の実施 ・ソーシャルキャピタルの醸成と豊かなまちづくりへの協力(健康格差の是正を含む) ○生活習慣病重症化予防 ・歯周疾患と全身疾患の検証のため、歯科レセプトデータの開示が求められる
重点取組テーマ		今後のテーマ
関連する指標		
①3歳児でむし歯のない者の割合②12歳児の1人平均むし歯数③40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合④過去1年間に歯科健診を受けた者の割合⑤60歳代でなんでも噛んで食べることのできる者の割合		
策定時値		最終目標
①83.9%②0.55歯③21%	④43.6%	⑤67.7%
		健康日本21
		①90%②維持・減少③維持・減少④65%⑤80%
		①-②-③25%④65%⑤80%

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション			
<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣の改善 <input type="checkbox"/> 生活習慣病の重症化予防	<input type="checkbox"/> アクション事業 <input type="checkbox"/> アクション関連事業			
分野	たばこ			
行動目標	禁煙にチャレンジ			

これまでの取組	25～28年度の取組状況・振り返り	今後の取組の方向性
【参考】28年度実績	中間地点	
【禁煙・受動喫煙防止活動の推進】 (1) 学校保健分野 ① 横浜市内及び県内の小・中・高校での防煙・禁煙教育に対して講師派遣 小学校8回、中学校19回、高校7回、大学10回、その他学生6回、PTA等2回 ② 養護教諭による喫煙防止活動の取り組みについての講演会6月4日 (2) 地域保健分野 ① 「港南 禁煙・分煙を進める会」の活動 ・「わかりやすい市民のための健康塾」市民公開講座(港南公会堂)4月9日 ・世界禁煙デーイベント5月26日 ・上大岡駅前禁煙キャンペーン8月2日 ・健康講話「毎日の生活から始める健康づくり」2月4日 ② 卒煙塾への協力 6/25.7/27.12/7 (3) 産業保健分野 ① 卒煙サポートセミナーへの協力 10/3.12/7.2/16 ② 協会けんぽ神奈川と卒煙塾との連携 (4) 市民・県民への受動喫煙防止キャンペーン活動 ① 日吉フェスタでのたばこ啓発活動11月5日 ② 健康チャレンジフェアでの禁煙相談・啓発活動11月27日	・25年度から28年度の4年間で、本会会員が、禁煙・受動喫煙防止に関して講演・研修会を実施したは、学校・地域・産業保健の分野をあわせると約440回を数える。学校での講演に関しては、学校長・養護教諭の理解による温度差があるようだ。産業保健分野では中小規模の企業の従業員の喫煙率はまだ高い。今後関係団体等と協力し、働きかけを進めていく必要がある。 ・イベント等で禁煙相談を実施しているが、以前と比較し、喫煙者が減少していることを実感する。今後も引き続き、関係団体と連携を深めて地道に、継続的に活動を展開していく。 ・平成27年5月31日の世界禁煙デーに神奈川新聞の1面全面意見広告を出したが、毎年実施することは困難である。今後、禁煙・受動喫煙防止についての広報、啓発活動をどのように展開していくか、検討していく必要がある。	
重点取組テーマ		今後のテーマ
関連する指標		
①成人の喫煙率 ②COPDの認知率		
策定時値		最終目標
①20.0% ②男性33.3% 女性41.0%		健康日本21 ①12%②80%

横浜市薬剤師会		参考計画		
ライフステージ		■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
取組テーマ	健康アクション			
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業			
分野	たばこ	運動		
行動目標	禁煙にチャレンジ	定期的に運動する あと、1000歩歩く		
これまでの取組		25～28年度の取組状況・振り返り		今後の取組の方向性
【参考】28年度実績		中間地点		
<p>①横浜市禁煙支援薬局事業を継続して実施</p> <p>②「薬草探索健康ウォーキング横浜」事業の実施</p> <p>③「薬物乱用防止キャンペーン」事業の啓発イベント会場において、禁煙支援相談や肺年齢測定等の実施</p> <p>④学校薬剤師による小学校・中学校での薬物乱用防止教育やお薬適正使用教育の実施、「薬物乱用防止教育横浜型プログラム」を作成</p> <p>⑤各区の健康まつりや区民まつりにおいてお薬相談や禁煙支援相談等の実施</p> <p>⑥区福祉保健センターや横浜シニア大学と連携し、高齢者のお薬適正使用について講演を実施</p> <p>⑦「よこはまウォーキングポイント」への参加と広報</p>		<p>①横浜市禁煙支援薬局事業を平成22年度より開始し、延2200名の相談が有りましたが、ここ数年は100名/年の相談に留まっています。支援登録薬局は28年度155店舗。今後、禁煙相談やOTC医薬品の禁煙補助剤の販売などセルフメディケーションをサポートする役割を担っていきます。また、COPDの認知度を高める啓発についても取り組んでいきます。</p> <p>②薬草探索健康ウォーキング事業を平成27年度から2回開催して、計100名が参加。毎回参加希望者が多いのですが、80代以降もいることから安全性から定員50名で実施しています。</p> <p>③「薬物乱用防止キャンペーン」事業の啓発イベント会場において、禁煙支援相談や肺年齢測定等の実施(28年度52件)</p> <p>④学校薬剤師による小学校・中学校での薬物乱用防止教育やお薬適正使用教育の実施。「薬物乱用防止教育横浜型プログラム」を教育委員会と共同作成し学校での授業を行いました。</p> <p>⑤各区の健康まつりや区民まつりにおいてお薬相談や禁煙支援相談等の実施(27年度:お薬の相談は18区で開催、禁煙相談は9区鶴見、中、南、旭、磯子、金沢、青葉、戸塚、泉区。28年度:お薬の相談は17区で開催(泉区以外)、禁煙相談は6区神奈川、南、旭、磯子、戸塚、瀬谷区で開催)</p> <p>⑥区福祉保健センターや横浜シニア大学と連携し、高齢者のお薬適正使用についての講演を実施。(各18区で受講者や関係に高齢者のお薬適正使用の資料を835部配布)</p> <p>⑦「よこはまウォーキングポイント」への参加と広報(会報になどに参加と市民に向けての資料を薬局内で掲示)</p>		
重点取組テーマ		今後のテーマ		
関連する指標				
①20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続②成人の喫煙率③COPDの認知率				
策定時値		最終目標	健康日本21	
①全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	②20.0%	③男性33.3% 女性41.0%	①全体34%、男性35%、女性33% ②12%③80%	①全体34%、男性36%、女性33% ②12%③80%

ライフステージ

「育ち・学びの世代」

「働き・子育て世代」

「総りの世代」

取組テーマ	健康アクション		
<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣の改善 <input type="checkbox"/> 生活習慣病の重症化予防	<input type="checkbox"/> アクション事業 <input type="checkbox"/> アクション関連事業		
分野	休養・こころ	たばこ	
行動目標	睡眠とってしっかり休養	禁煙にチャレンジ	

これまでの取組	25～28年度の取組状況・振り返り	今後の取組の方向性
【参考】28年度実績	中間地点	
①全国労働衛生週間横浜南地区推進大会及び経営首脳者セミナーにおいて、ストレスチェック制度の内容及び実施の周知徹底 ⇒全国労働衛生週間横浜南地区推進大会及び社会福祉施設に対する災害防止講習会を横浜市と共催することで、健康づくり対策の強化と、周知啓発を効果的に行うことができた。 また、横浜市主催の各種介護事業者向け講習会に講師を派遣することによって腰痛予防・転倒災害防止対策等健康づくり対策の周知・啓発を行うことができた。	・全国労働衛生週間横浜南地区推進大会において、平成25年度「職場のメンタルヘルス対策」(参加者366名)、平成26年度「ロコモティブシンドローム」(参加者487人)、平成27年度「ストレスチェック制度について」(参加者650人)、平成28年度「ストレスチェック制度をいかに健康増進につなげるか」(参加者455人)と近年はストレスチェック制度(平成27年12月1日施行)の啓発を主に行ったところ、平成29年7月末において、ストレスチェック実施率が当署管内は、78.2%(平均74.9%)であったことから少しは啓発の効果があつたと考える。 ・社会福祉施設については、全国的に事業場数が毎年、増加しており、労働災害発生件数も10年で2倍となっている。当署では、横浜市と連携して講習会等を毎年、実施しているが、腰痛等の労働災害発生件数は、横ばい状態である。今後も、事業場数が増加することが見込まれることから、引き続き、横浜市との連携を強化して、腰痛等の労働災害発生防止を推進する必要があると考える。	
重点取組テーマ		今後のテーマ
関連する指標		
①成人の喫煙率 ②COPDの認知率③睡眠による休養を十分とれていない者の割合		
策定時値		最終目標
①20.0% ②男性33.3% 女性41.0%	③男性38.2% 女性34.0%	①12%②80%③15%
		健康日本21
		①12%②80%③15%

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション		
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業		
分野	休養・こころ		
行動目標	睡眠とってしっかり休養		

これまでの取組	25～28年度の取組状況・振り返り	今後の取組の方向性
【参考】28年度実績	中間地点	
<p>H27年度において、産業保健スタッフを対象としたストレスチェックに係るのセミナーを33回開催し823名の参加があったがH28年度においては、6回156名、7回目の申込み者2名となったことからセミナーの開催は終了した。11月、2月に神奈川労働局と共催しストレスチェックの実施事例研修会を開催したところ240名の参加があり各事業場の関心の高さが窺えた。また、当センターの地域窓口として、事業場規模50人未満の小規模事業場を対象とした地域産業保健センターを県下に12設置している。H28年度、地域産業保健センターの支援事業として、ストレスチェック実施後の高ストレス者に対する面接指導は11名の結果となった。これら以外の面接指導（事後措置、長時間産業、メンタルヘルス等）では約9,000名である。小規模事業場に対しては努力義務となったもののストレスチェックの関心は低いものと思料する。</p>	<p>平成26年4月から、産業保健を支援する3つの事業(以下の①②③)を一元化して、「産業保健活動総合支援事業」として、事業場の産業保健活動の総合的な支援となった。</p> <p>①地域産業保健事業 労働者数50人未満の事業場の事業者や労働者を対象に産業保健サービスの提供</p> <p>②産業保健推進センター事業 産業保健スタッフなどを対象に、相談、研修、情報提供などの支援</p> <p>③メンタルヘルス対策支援センター事業 産業保健スタッフや事業主を対象に職場のメンタルヘルス対策の支援</p> <p>これらの産業保健事業については関係行政機関、災害防止団体及び事業者団体等と連携し会議、研修及び集会等あらゆる機会を捉えて周知広報を図り、事業場の産業保健活動の支援及び産業保健活動へのニーズ対応する事業の展開に努めた。 今後一層の産業保健事業を展開をするため当センターの認知度を向上に努めたい。</p>	<p>厚生労働省が示した『事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン(H28.2)』に基づき以下の『治療と職業生活に関する両立支援事業』を取組みます。</p> <p>①事業場への啓発セミナーの開催 ②事業場への個別訪問支援 ③労働者と事業場の個別調整支援 ④労働者・事業場からの相談対応</p>
重点取組テーマ		今後のテーマ
関連する指標		
睡眠による休養を十分とれていない者の割合		
策定時値(21年度)		最終目標
男性38.2% 女性34.0%		健康日本21
		15%
		15%

ライフステージ

■「育ち・学びの世代」

■「働き・子育て世代」

■「稔りの世代」

取組テーマ	健康アクション			
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業			
分野	健診受診啓発			
行動目標	1年に1回特定健診を受ける			

これまでの取組		25～28年度 of 取組状況・振り返り			今後の取組の方向性	
【参考】28年度実績		中間地点				
<p>ソーシャルキャピタルの醸成については理解が深まったとは言えませんが引き続き取り組んでまいります。 健診受診率啓発、特に零細な飲食店従業員に向けてやや成果を上げております。 検便事業につきましては、今般インターネットによる事業の促進を図ってまいります。(ネットによる検便キットの販売)</p>		<p>特定健診の受診率向上の取組は、神奈川県食品衛生国民健康保険組合と連動して、業種組合の会合等での議題として取り上げてもらったり、小規模な飲食店等にパンフレットの配布をして啓発している。 検便の事業はインターネットによる安価な販売が定着し始め、市内の飲食店の他、水道事業者等の他業種の方の購入も多くなり食中毒予防等の効果が期待できる。</p>				
重点取組テーマ				今後のテーマ		
関連する指標						
特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)						
策定時値(21年度)				最終目標	健康日本21	
19.7%				35%	—	

ライフステージ

■「育ち・学びの世代」

■「働き・子育て世代」

■「稔りの世代」

取組テーマ	健康アクション		
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業		
分野	健診受診啓発		
行動目標	1年に1回特定健診を受ける		

これまでの取組	25～28年度の取組状況・振り返り	今後の取組の方向性
【参考】28年度実績	中間地点	
<p>①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉事務所と合同で研修会をブロック毎に2回開催 [参加者数:1回目87人、2回目85人研修会1回目:これまでに実施している保健事業の振り返りをワークシートに記載し、保険者及び県保健福祉事務所と課題等の共有を図った。研修会2回目:事務局からKDBで作成した計画用データを保険者に提供後、そのデータの読み取りやそこから見える健康課題への対策に向けた事業をワークシートにまとめた。] ・委員会では6保険者に対し計画内容について、9保険者に対し平成27年度まで策定した計画における事業の内容について、助言等による直接支援を実施。また、委員を講師とした研修会を2回開催(参加者数:1回目60人、2回目66人) ・KDBの操作研修を6月～8月までに33保険者(広域連合含む)、101名に実施。また、データヘルス計画に活用できそうなデータを各市町村分作成し提供した。 <p>②特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオCM(ニッポン放送とFM横浜において6月に60秒パーソナリティ生CM2回と20秒フリースポットCM18回)、新聞広告掲載(読売新聞と朝日新聞の神奈川県版に半3段サイズで2回による広報)を実施。 ・健康まつり等支援ポケットセッション作成。 ・未受診者勧奨等の保険者支援事業として、神奈川県在宅保健師会「いちょうの会」の保健師を8保険者にのべ12人派遣。 ・平成28年11月27日の「健康チャレンジフェアかながわ2016」で保険者協議会事務局として血管年齢測定ブース出展をし、特定健診の受診啓発と保健師等による健康相談を実施(測定者140名) ・保険者協議会でリーフレットとポスターを作成。 <p>③健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CKD(慢性腎臓病)をテーマとした健康パンフレットを6月に保険者へ計41,100部配布。 ・保険者が行う健康増進事業への支援 <p>(1)神奈川県在宅保健師会「いちょうの会」の保健師派遣:延べ159人派遣 (2)健康測定機器の貸出:214台 (3)健康推進団体に事業依頼:8保険者</p>	<p>①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県保健福祉事務所での研修に、国保と衛生の両担当が参加することで、連携した計画策定が計られ、進捗管理表や事業別ワークシートの作成・活用により、地域特性が似ている市町村同士が研修に参加することで、共通課題への対策検討に繋がることのできたので、政令市、国保組合、広域連合についても研修会の調整を行っていく。 ・KDBについては、平成26年1月から県内全保険者に運用を開始して以来、データ活用のための集合研修や保険者訪問等の端末操作研修等を実施しており、平成27年度からは独自の拡張ツールの「保健事業支援システム」を配布し更なる利便性向上に努めてた。平成28年度は、「データヘルス計画」策定に活用いただくデータの抽出・加工など提供の支援をおこなっている。また、後期高齢者については後期ユーザーIDを保険者へ配布し、後期データの保健事業への利活用も進めている。 <p>②特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未受診者受診勧奨等の保険者支援事業としては、平成25年度から28年度で延べ35保険者が活用しており、電話での受診勧奨後に健診受診につながった割合は、27.6%(25～27年度平均)と高い。日中の活動で不在が多いが、留守電へメッセージを残した効果もみられている。引き続き、活用保険者の取り組みを情報共有していき、受診率向上の支援をしていく。 <p>③健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康パンフレットの作成や配布、神奈川県在宅保健師会「いちょうの会」の保健師派遣など、保険者出席の会議で未活用保険者への周知を行い保険者の健康づくり促進に向けた取組の強化を行っていく。 	
重点取組テーマ		今後のテーマ
関連する指標		
特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)		
策定時値(21年度)		最終目標
19.7%		健康日本21
		35%
		—

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション			
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業			
分野	健診受診啓発	運動		
行動目標	1年に1回特定健診を受ける	定期的に運動する あと、1000歩歩く		

これまでの取組	25～28年度 of 取組状況・振り返り	今後の取組の方向性	
【参考】28年度実績	中間地点		
①健保連かながわ100キロウォーク ・平成28年4月～平成29年2月実績 延べ3,216名(月平均:322名)参加 ②特定保健指導促進のための共同事業実施状況 ・外部委託、共同設置保健師による特定保健指導実施実績 ・動機づけ支援:84名 ・積極的支援:132名 計216名 ・特定保健指導セミナー:2回開催(延べ71名) ・専門職のための勉強会3回開催(延べ32名) ・健康教育:4回開催(延べ20名) ・各種セミナー:4回開催(延べ131名) ③講習会等の開催 ・健康増進講習会10月開催:45組合65名参加 ・疾病予防講習会3月開催:48組合79名参加 ④組合からの要請による講話等の開催 ・8回開催(延べ331名)	①毎月第4土曜日、100キロウォーク(1年間で100キロ歩く)を実施しており、25年度から28年度の4年間で48回実施、計16,702名(年間4千人以上、1回平均348名)が参加した。このイベントもすっかり定着し毎回盛大に実施しているが、60歳代以降の参加者が多く、若い世代の参加、子供も楽しめる(ファミリーコースの併設等)企画も必要と考えられる。 ②特定保健指導促進のため、特定保健指導機関として登録している。要請のある健保組合に対し、共同設置保健師が指導を実施している。また、指導実践者のスキルアップ勉強会や、40歳未満の健康教育、ポピュレーションアプローチとして各種セミナーの実施にも取り組んでいる。 ③講習会については、年2回(健康増進テーマ:10月、疾病予防テーマ:3月)定着して実施してきた。4年間で健康増進テーマは計282名(1回平均70名)、疾病予防テーマは計324名(1回平均81名)と、毎回関心は高く今後も継続していきたい。 ④健保組合からの要請による講話等は、共同保健師が組合に出向いて要請テーマ(睡眠・熱中症・食生活改善・メンタルヘルス等)の講話やセミナーを実施、年々要請が増加しており今後も推進していきたい。		
重点取組テーマ		今後のテーマ	
関連する指標			
①20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続②特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)			
策定時値		最終目標	健康日本21
①全体26.8%、男性25.4%、女性27.5% ②19.7%		①全体34%、男性35%、女性33%②35%	①全体34%、男性36%、女性33%②—

全国健康保険協会神奈川支部	参考計画
---------------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション			
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業			
分野	健診受診啓発	たばこ	歯・口腔	
行動目標	1年に1回特定健診を受ける	禁煙にチャレンジ	定期的に歯をチェック	

これまでの取組	25～28年度取組状況・振り返り	今後の取組の方向性	
【参考】28年度実績	中間地点		
<p>①生活習慣病予防健診のための受診促進策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに対象事業所に対し一斉案内を実施 ・新規適用事業所への受診勧奨を実施 ・未受診事業所への受診勧奨業務を健診機関へ委託(事業者健診データ提供も併せて依頼) <p>②特定健康診査のための受診促進策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会主催の集団健診人が集まりやすい場所に会場を設定)の実施 ・受診促進のため被験者hの生活習慣病予防健診と同じ検査項目を被扶養者も受診できるような体制を確保 <p>③保健指導の実施率の向上策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導の利用拡大を推進するためのアウトソーシングの実施 ・特定保健指導対象者の労働環境や健康公道の調査分析について大学との連携 ・委託による集団保健指導に実施 <p>④データヘルス計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性向け禁煙リーフレット等の配布 ・イベントでのスモーカーライザーの実施 ・事業所内での禁煙に関する講演の実施 <p>⑤重症化予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未治療者に治療を受けてもらうための勧奨等の実施 <p>⑥その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診受診のインセンティブを働かせるため、健診受診者を対象とした横浜銀行「特別金利定期預金」を適用 ・かながわ健康企業宣言の実施 ・県歯科医師会、県薬剤師会との協定に基づいた健康づくりの推進 ・健康保険委員を対象とした研修を協定締結4市(横浜市、川崎市、相模原市、藤沢市)と共同で開催 	<p>1. 健診の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受診率は上昇しているものの全国平均と比べ低位に推移してきた。 【被保険者】[H25]47.8%、[H26]48.4%、[H27]48.7%、[H28]48.9% (全国:54.7%) 【被扶養者】[H25]14.9%、[H26]16.7%、[H27]16.6%、[H28]18.7% (全国:22.2%) ・健診受診率向上のため、対象事業所へのタイムリーな健診案内・申込書の送付、任意継続被保険者への健診案内、健診機関への受診勧奨委託などに取り組んできた。また、2年間受診したことがない被扶養者に対しては、無料集団健診を実施してきた。さらに、健診受診のインセンティブを働かせるため、健診受診者を対象とした横浜銀行「特別金利定期預金」を適用した。今後も引き続き同様の取組を継続していくことに加え、さらなる向上を検討していく。 <p>2. 特定保健指導の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師の数が不足している状況等にあり実績は低位に推移してきた。今後はアウトソーシングも活用し保健指導の利用拡大を推進する。 ・6か月後評価実施率(神奈川支部) 【被保険者】[H25]5.4%、[H26]6.2%、[H27]5.3%、[H28]3.8% 【被扶養者】[H25]3.0%、[H26]2.8%、[H27]5.2%、[H28]3.6% <p>3. 事業主等の健康づくり意識の醸成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かながわ健康企業宣言」の参加企業に対し、健康づくりサポートを実施するなどし、事業主を支援することにより従業員の健康維持・増進に努めてきた。今後は参加企業を増やし事業を推進していく。 ・「データヘルス計画」に基づき、事業所の禁煙に関する意識の醸成を図ってきた。 <p>4. 重症化予防対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の重症化を防ぎ、医療費適正化及びQOLの維持を図るため、健診の結果、要治療と判定されながら治療していない加入者に対して受診を勧奨し、確実に医療につなげる取組を実施した。今後は横浜市と同内容の糖尿病腎症にかかる重症化予防実施事業を行う予定。 <p>5. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県歯科医師会、県薬剤師会との協定に基づいた健康づくりを推進した。 ・健康保険委員を対象とした研修を協定4市(横浜市、川崎市、相模原市、藤沢市)と実施した。 ・「ピンクリボンかながわ」との共催による乳がん撲滅の啓発事業を実施した。 		
重点取組テーマ		今後のテーマ	
関連する指標			
①成人の喫煙率 ②COPDの認知率③特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)④過去1年間に歯科健診を受けた者の割合			
策定時値		最終目標	健康日本21
①20.0% ②男性33.3% 女性41.0%	③19.7%	④男性42.5% 女性54.2%	①12%②80%③35%④65% ①12%②80%③—④65%

横浜市医師会		参考計画		
ライフステージ		■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
取組テーマ	健康アクション			
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	□アクション事業 □アクション関連事業			
分野	健診受診啓発	検診受診啓発		
行動目標	1年に1回特定健診を受ける	定期的にがん検診を受ける		
これまでの取組		25～28年度取組状況・振り返り		今後の取組の方向性
【参考】28年度実績		中間地点		
<p>①各種がん検診受診率の向上と精度管理の充実</p> <p>②各種健診の円滑な実施</p> <p>③全市一斉健康相談事業実施(各区年に一度、催事にあわせて実施)</p> <p>④市民広報誌「みんなの健康」の発行(年6回、各回12万部発行)</p> <p>⑤糖尿病重症化予防事業に対する協力</p> <p>⑥たばこ対策事業への協力</p>		<p>①各種がん検診受診率向上と精度管理の充実のため、各種がん検診それぞれの協議会において、検診受診率・精度管理等について報告・話し合いが行われた。胃がん内視鏡検診については、精度管理向上のための読影医向けの研修会を開催した。</p> <p>②平成29年度より産婦健診の導入に向け、こども青少年局等と連携し、事業の円滑な実施のため、調整を行った。</p> <p>③全市一斉健康相談事業については、各区において年一回、各区医師会・各区福祉保健センターと協力し、区の催事にあわせて実施するなど、一般市民の健康相談事業を行った。</p> <p>④一般市民向けに、市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送をおこなった。</p> <p>⑤糖尿病重症化予防事業に対しては、健康福祉局と協力してモデルとして実施をし、平成29年度からの全区実施に向け調整を行った。</p> <p>⑥たばこ対策事業について健康福祉局と協力し、禁煙外来医療機関名簿の作成及び禁煙外来マップを作成、一般市民向けに広報を行った。</p>		
重点取組テーマ			今後のテーマ	
関連する指標				
①胃・肺・大腸がん検診40～69歳の過去1年間②乳がん検診40～69歳の過去2年間③子宮がん検診20～69歳の過去2年間④特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)				
策定時値			最終目標	健康日本21
①胃・男性36.7%女性27.0%/肺・男性23.7%女性18.2%/大腸・男性24.4%女性18.7%	②41.5% ③39.6%	④19.7%	①胃40%/肺40%/大腸40%②50%③50%④35%	①胃40%/肺40%/大腸40%②50%③50%④35%